

第4章

地域資源を活かした農村の振興・活性化に向けた取組

『活気ある、ずっと住み続けたい町』を目指し、ICTを使って子どもからお年寄りの暮らしを支援
にしあいづちいきかっせいかきょうぎかい ふくしまけんにしあいづまち
西会津地域活性化協議会〔福島県西会津町〕

【取り組んでいるプロジェクト】

【プロジェクト1】R1～
埼玉県戸田市との教育連携・学習支援

埼玉県戸田市との遠隔会議システム環境の整備、西会津小学校児童への学習支援用タブレット配布による、教育支援



公立大学法人 会津大学

ICT関連事業に関するアドバイザー

【プロジェクト2】R1～
イノシシ被害対策

動体感知カメラ、振動感知センサーを活用したイノシシの生態状況等把握



【プロジェクト3】R1～
認知症高齢者等の見守り

GPS端末を活用した認知症高齢者等の見守りサービス



【プロジェクト4】R2～
農林産物等集荷及び買い物支援等

農林産物等出荷農家及び移動販売業者等、直売所関係者を対象としたタブレット講習会の開催によるネットワーク構築、当該ネットワークを使った野菜等集荷・買い物支援



【プロジェクト5】R2～
働きざかりの若者の健康づくり

企業の社員個人が活動データや睡眠データ、体重、血圧などを記録するスマートフォンアプリを使った自らの健康づくり



【取組の概要】

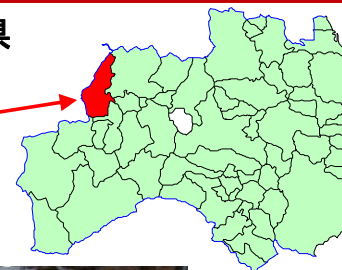
○若い担い手や高齢者等が西会津町に住み続けられるよう、ICTを活用し、児童の教育支援、若い世代の健康づくり、認知症高齢者等の支援、買い物弱者支援、さらに有害鳥獣被害の軽減対策のため、タブレット等を利用した遠隔学習による教育支援、GPSでの高齢者見守り、カメラとセンサーによるイノシシ生態状況把握と被害防止など5つのプロジェクトを令和元年度から、定住条件の強化を図るために実証を開始しました。

【農業の成長産業化】

○福島県の北西部、新潟県との県境に位置する本町は、寒暖差が大きい地域特性から全国でもトップクラスの食味を誇る米の産地です。また、ミネラル野菜の生産振興、菌床しいたけなど、きのこの大規模産地化の推進に取り組んでいます。

福島県

西会津町



肉厚の菌床しいたけ

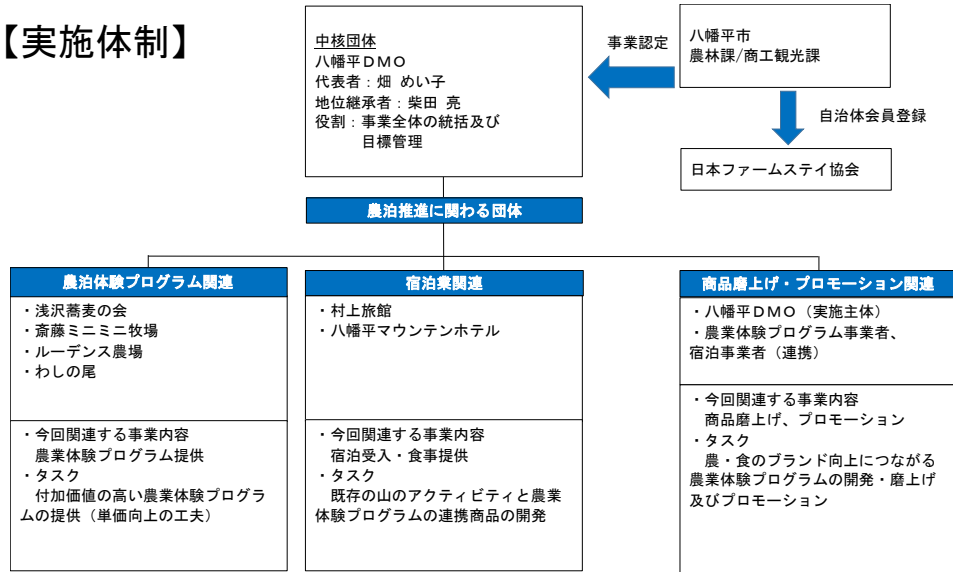


健康な土で栽培したミネラル野菜

インバウンドの経済効果を農泊の取組を通じて地域に波及させる

はちまんたい きょうぎかい いわてけん はちまんたいし
八幡平ファームステイ協議会 [岩手県八幡平市]

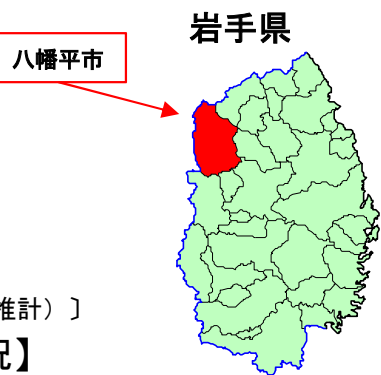
【実施体制】



【取組内容】

- インバウンド対応に向けた取組
 - ・インバウンドに対応できる体験プログラムの造成（5プログラム）。
 - ・これまで修学旅行受入用に低価格で提供されていた体験を、インバウンド向けに高単価で受入できるようブラッシュアップ。
- 外国人向けモニターツアーの実施
 - ・地域の宝である地酒「鷲の尾」の酒蔵見学と、地域の食材と地酒のペアリングを楽しむ「八幡平オーベルジュツアー」を造成。
 - ・単なるりんご狩りだけではなく、りんごの皮むき、四季のりんご園の説明付き散策、りんごづくしディナー、りんごジャム作りなどを盛り込んだ「りんごづくしツアー」にすることでテーマ性を持たせ、満足度の高い高単価な商品を造成。
- マーケティングに係る取組
 - ・協議会ウェブサイトにて体験商品を販売。
 - ・体験プログラムと地域の宿泊施設を組み合わせた旅行商品を造成し、OTAなどを活用して継続的に販売。
 - ・海外旅行エージェント向けの体験タリフ（営業資料）を作成。
- 農場ゲストハウス構想の実現に向けたワークショップ等を開催。

【取組地域の概要】



- 岩手県八幡平市
- 主要作物（農業産出額）
 - 米（28.2億円）
 - 野菜（22.6億円）
 - 乳用牛（23.1億円）
 [平成30年市町村別農業産出額（推計）]

【インバウンドの受入状況】

北東北の中心部に位置する岩手県八幡平市は、四季折々の絶景や秘湯、スキーリゾート等の観光資源に恵まれ、観光入込客数は年間200万人、宿泊者数約56万人のうちインバウンド宿泊は10万人。インバウンドの長期滞在に対応できる各種体験コンテンツを造成。

話題の観光スポット「八幡平ドラゴンアイ」



紅葉の絶景スポット「松川渓谷」



スキー場など豊かなアウトドア資源



地域の食の魅力と地酒のペアリングを楽しむ「八幡平オーベルジュ」のメニュー例



りんご園での体験を五感で楽しむ外国人モニター

事業の実施により、令和元年度は事業実施前（平成29年度）の4倍以上の売上げ実績を確保。

大豆生産と豆腐製造を通じた自立支援

しゃかいふくしほうじん いわてこうせいかい いわてけんもりおかし
社会福祉法人 岩手更生会〔岩手県盛岡市〕

【工夫のポイント】

- 岩手県盛岡市にある「まめ工房緑の郷」は、社会福祉法人岩手更生会が運営する就労継続支援A型事業所で、知的障害者を中心とした施設利用者23名が、大豆生産、豆腐の製造・販売のほか、地域の営農組合や近隣農業者から農作業を請負、通年で農業活動を実施。
- 昭和50年に豆腐製造を開始して以来、原料となる大豆は、耕作放棄地を再生して自家生産しており、手造りの豆腐や油揚げを製造し、6次産業化に一貫して取り組む。
- これまでに請け負った農作業の内容が評価され、農作業の依頼や農地の耕作依頼が増加し、地域農業の担い手となっている。



大豆生産をする利用者

【取組と成果】

- 農業者の高齢化に加え、障害者の丁寧な作業が地域で評価されてきたことにより、農作業等の依頼は、平成20年度の2件から平成30年度には14件と、10年間で大幅に増加。
 また、作業が評価されることで、請負報酬の引上げも実現。
- 豆腐の原材料を近隣農地で自家生産し、安心・安全な豆腐製造に取り組む。
- 障害者は、手作業のみならず、作業難度が高い乗用管理機や刈払機の操作まで行えるよう、ステップアップ中。
- 耕作放棄地の再生利用が評価され、平成23年度に全国農業新聞賞を受賞。



早朝からはじまる豆腐づくり



製造した豆腐

【団体の概要】

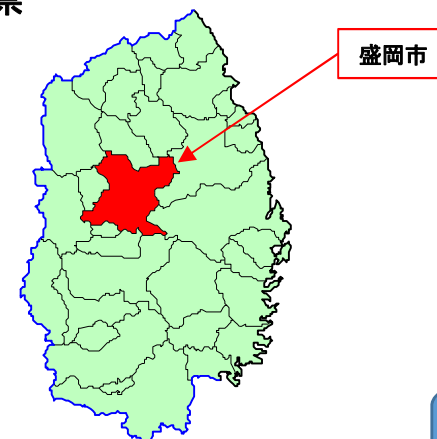
- 設立 昭和41年
 ※平成20年に就労継続支援A型事業所「まめ工房緑の郷」を開設。
- 代表者 細田 重憲 氏
- 雇用人数 施設利用者23名
- 主な栽培品目及び面積
 約12haの農地で大豆を自家生産、水稻7ha、長ねぎ0.3ha（うち、3.8haは耕作放棄地を再生利用）
- 取組のきっかけ
 地域貢献に力を入れており、耕作放棄地の再生や農作業の請け負いを始めたこと。

【取組地域の概要】

- 岩手県盛岡市
- 主要作物（農業産出額）
 米（31.6億円）
 野菜（26.1億円）
 乳用牛（13.7億円）

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕

岩手県



高い品質の肉用牛を飼育することで黒字化を達成

しゃかいふくしほうじん がっさんふくしかい やまがたけんつるおかし
 社会福祉法人 月山福祉会〔山形県鶴岡市〕

【工夫のポイント】

- 山形県鶴岡市にある「作業所月山」は、昭和63年から農畜産業に取り組む社会福祉法人月山福祉会が運営する就労継続支援B型事業所で、知的障害者を中心とする施設利用者10名が、県特産豆の生産、果樹栽培とジャム製造、肉牛の飼育等を通年で実施。
- 日本短角種は、国産牧草のみで飼養。将来は、無農薬・無化学肥料の牧草で育てる「有機JAS認証牛」に発展させ、牧草地を借受けて、飼育頭数を拡大する予定。
- 「量」より「質」で勝負することで、畜産部門の黒字化を達成する見込みであり、工賃向上の実現にも取り組む。



日本短角種



らっかせいの収穫



加工品（ジャム）

【取組と成果】

- 庄内町所有牧場を指定管理者として借受け、総飼養頭数48頭のうち36頭を放牧。日本短角種を国産の粗飼料（牧草）のみで飼育。平成29年11月生まれの牛から「完全国産牧草牛」としてブランド化し、出荷の準備を進める。
- 輸入飼料による飼育が多い現状で、国産の粗飼料のみでの飼育は貴重。令和5年度には、全国的に珍しい、障害者が生産に携わった「有機JAS認証牛」の認証取得を目指す。
- （元）公営の牧草地44haに加え、令和3年度に50haの牧草地を借受け、約100haで飼養頭数の拡大を準備。
- 障害者が県の特産品である「だだちゃ豆」の生産に関わることで、生産量の維持に貢献。

【団体の概要】

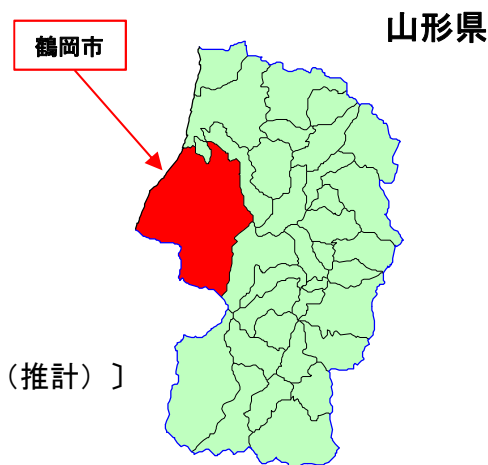
- 設立 昭和63年
 ※平成19年に就労継続支援B型事業所「作業所月山」を開始
- 代表者 石川 一郎 氏
- 雇用人数 施設利用者10名
- 主な栽培品目及び面積
 約4haの畑と100坪のハウス2棟で、県特産「だだちゃ豆」らっかせい、たまねぎ、にんにくなどの野菜を生産・販売
 庄内柿、ブルーベリー、いちじくを栽培し、ジャムに加工して販売
- 取組のきっかけ
 「無農薬・無化学肥料」にこだわり、栽培を始めたこと。

【取組地域の概要】

●山形県鶴岡市

- 主要作物（農業産出額）
 米（140.8億円）
 野菜（121.7億円）
 乳用牛（0.6億円）

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕



ワークショップ(WS)による話し合いを基にできることから実践

くぬぎだいらたなだ ほぜんかつどうすいしんいんかい やまがたけん あさひまち
榎平棚田保全活動推進委員会〔山形県朝日町〕

【工夫のポイント】

- 棚田保全を含めた地域づくりを進めるため、県・町・土地改良区が協力して地域との話し合いを実施。
- 身の丈に合った持続可能な取組とするため、「できることから実践していこう」を合い言葉にWSで作成した計画に基づく活動を実践（展望台の整備、棚田保全隊によるボランティア、ヒメサユリ祭り等）。
- 棚田の景観、天日干し、減農薬等で棚田米を付加価値販売。
- 地域おこし協力隊（ゆるキャラのウサヒ）の協力を活かした棚田のPR。



棚田の景観



棚田保全活動（草刈り）



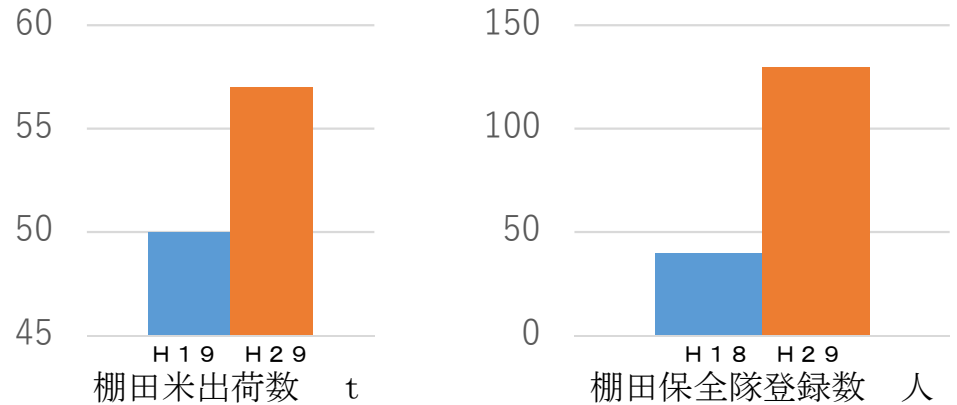
棚田米（天日干し自然乾燥の「つや姫」）

【活動組織の概要】

- 設立：平成15年
- 構成員：耕作農家25戸
- 取組面積：14ha
- 活動内容：棚田保全活動・交流活動、棚田米のブランド化
- 取組のきっかけ：「日本の棚田百選」に選ばれたものの、棚田の荒廃と離農が進む状況にあったため、地域自らの危機感から保全活動をスタート。

【取組と成果】

- 棚田米の出荷数量が増加。
- 棚田保全隊（ボランティア）登録数が増加。
- 展望台から棚田の風景を楽しむことから、年間6千人ほどの観光客を誘客。

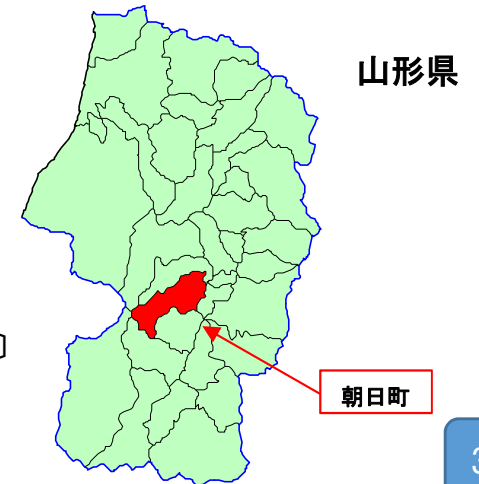


【取組地域の概要】

- 山形県西村山郡朝日町
- 主要作物（農業産出額）
 米（4.6億円）
 野菜（1.3億円）
 果実（28.0億円）

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕

- 指定棚田地域の指定
 西五百川村：令和2年7月10日



交流イベント等をとおして、関係人口の創出、観光資源として活用

しかむら たなだちいきしんこうきょうぎかい やまがたけん おおくらむら
四ヶ村の棚田地域振興協議会〔山形県大蔵村〕

【工夫のポイント】

- 棚田を認知してもらうため、ビュースポットの整備や案内看板の設置など景観整備を行うことで、写真撮影等の訪問者が増加。
- 来訪者の増加により、きれいな田んぼを見てもらおうと、地元農家の意識が変化。
- 棚田の写真コンテスト、田植えや稲刈り体験、収穫祭、ほたる火コンサートなど、多数の交流活動を行い、観光客を誘客。
- 棚田米生産販売組合を組織し、仙台圏を中心に販売を行い棚田米のブランド化を促進。



棚田の景観



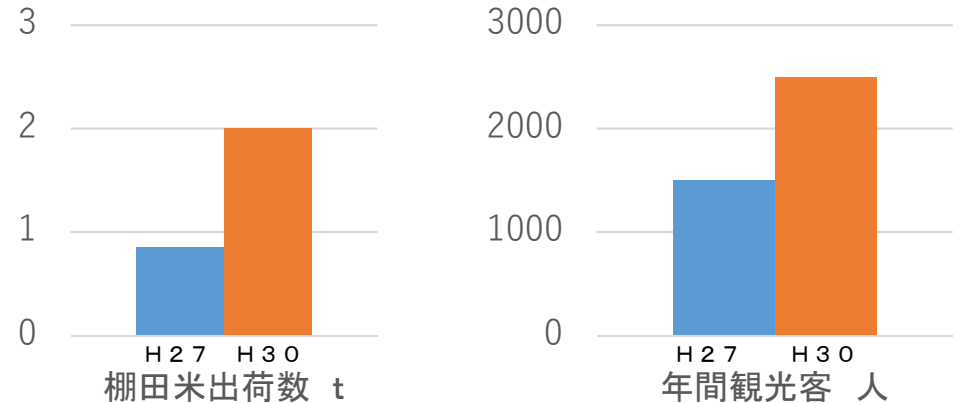
案内看板

【活動組織の概要】

- 設立：令和元年
- 構成員：20名
- 取組面積：136ha
- 活動内容：棚田保全活動・交流活動に係る各種事業の提案等、棚田米のブランド化
- 取組のきっかけ：棚田の保全の及び地域振興を図るため、既存の四ヶ村棚田開発協議会、棚田米生産販売組合等を主体とした組織で活動開始。

【取組と成果】

- 平成27年度に棚田米生産販売組合を組織し、棚田米の出荷数量が増加。
- 棚田のほたる火コンサート等を通じて地域への訪問者を誘客したことから、年間観光客数が増加。



【取組地域の概要】

- 山形県最上郡大蔵村
- 主要作物（農業産出額）
 - 米（6.9億円）
 - 野菜（6.2億円）
 - 乳用牛（1.2億円）

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕

- 指定棚田地域の指定
大蔵村：令和2年4月9日

